

プログラミング演習 II 課題の実施および提出方法

出席について：演習の時間に端末室に来ること。

プログラムのファイル名について：第 x 回レポート課題の問題 y のソースプログラムは、 $x-y.c$ というファイル名にする。ただし、事前課題は y を 0、発展課題は y を 9 とする。また、課題によりファイル名を指定することがある。

プログラム作成について：以下のことに注意してプログラムを作成すること。

- もし、作成したプログラムで入力や出力に関して仮定があるならその旨をソースファイルの先頭に、コメント文として入れること。
- 課題で指示した動作の核心部分をライブラリ関数で実現できることがあっても、そのような部分でライブラリ関数を使用しないこと。
- 作成したプログラムが、正しく動作すること (動作検証) を十分に確認すること。プログラムに対してデータを入力する場合、1 種類のデータだけでなく複数のデータを使い動作を確認するなど。いくつかの課題で実行例を示しているが、それで示した状況以外でも正しく動作しなければならない場合があり、もし、不具合が生じるプログラムを作成した場合、減点することがある。
- 作成するプログラムに標準入力等でデータを入力する場合があるが、可能な限り想定外の入力が与えられた場合の例外処理をするプログラムを作成することが望ましい。ただし、完璧な例外処理を行うプログラムを作成することは非常に困難である。課題で指示したプログラムを作成すれば良いが、余力があり、能力向上を目指す学生は例外処理を充実すると良い。

レポート作成について：

- レポートのファイル名は適当に付ければ良い。
- タイトルは「プログラミング演習 2 レポート課題 (第 x 回)」とする。
- 書式 (後ろのサンプルを参照) :
 - 1 行目：タイトル
 - 2 行目：「学生番号 氏名」
 - 3 行目：空行
 - 4 行目以降：
課題 1 の回答を書く。プログラムを作る課題の場合、プログラムとその説明、実行結果を書く。ただし、プログラム全体の概要、そして、プログラム内の適度な動作的なまとまりについての意味が書かれていたら非常によい。
なお、プログラムを張り付ける際、例えば、ソースファイル `foo.c` に対して `cat -n foo.c` を実行すると行番号が入るので、画面表示をコピーすれば良い。
1 行空行をあける。
課題 2 の回答を書く。プログラムを作る課題の場合、プログラムとその説明、実行結果を書く。
1 行空行をあける。
以降、同様。
- いくつかの演習で発展課題を設けている。これらは必須ではないが、提出していた場合には加点する。

レポートのサンプル:

プログラミング演習 2 レポート課題 (第 1 回)

Bxxxxxx 広島 太郎

課題 1

(プログラム)

```
1: #include <stdio.h>
2: int main()
3: {
4:     printf("Hello World!\n");
5:     return(0);
6: }
```

(説明)

- 1: ヘッダファイルを取り込む
- 4: 関数 printf で Hello World! を標準出力に出力

(実行結果)

```
% ./0-1
Hello World!
```

提出方法: ソースプログラムとレポート (解説を加えたもの) を、以下に注意して Bb9 を使い提出すること。

- 事前課題は、端末室演習の前日までにそのソースファイルを提出すること。
- 端末室で行う演習課題のソースファイルおよびそのレポートを、指示している時刻までに提出すること。
- ソースプログラムはコピーペーストするのではなく「ファイルの添付」で提出すること。テキストファイルをコピーペースト (テキスト情報の入力) で提出すると採点しないことがある。
- レポートはテキストファイル (Word 等でも可) に書き込んだものを「ファイルの添付」で提出すること。テキストファイルをコピーペースト (テキスト情報の入力) で提出すると採点しないことがある。
- ソースプログラムやレポートを提出する際、添付の処理後に必ず「送信」ボタンを押すこと。これを押さないと提出が完了せず、未提出の扱いになるので注意すること。
- 期限までにレポート等を複数回再提出しても構わない。ただし、修正したファイルのみを提出するのではなく、毎回、すべてのファイルを提出すること。また、期限を過ぎて再提出した場合、「遅刻」と見なすので注意すること。